

「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会事務所は日限山4・45・10（八四四―八八五〇）
 入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山4・7・1

施設見学会 介護付き有料老人ホーム レスト・ヴィラ戸塚

宮井 豊子

去る七月十一日、暑い暑い日でしたが、総勢十名で、今年三月一日に出来たばかりの標記施設を見学しました。場所は、戸塚駅より徒歩七分、アピタ(旧称ユニー)の建物手前に沿って左折した奥の突き当たりであり、居酒屋で有名なワタミの経営する施設です。

地上四階建ての建物に入るとすぐ、外来者は「手洗いとうがい」をするように言われ、入居相談係の齋藤さんから説明を受けました。

●入居資格……介護付き有料老人ホームなので、介護保険の認定が要介護一〜五の人で、伝染性の疾患のない人(要支援は不可)。

●共同設備……一階は、すべての入居者が「わが家」のようにくつろげる充実の共同空間で、食堂・理美容室(要予約)・相談室・事務室・風呂場(桧風呂)・機械浴などがありました。

入浴は、一人で入れる方は週三回、介護者が必要な場合は、週二回入れます。

●居室……二〜四階が居室フロアで、八十八室、定員九十二名で、内四室は二名定員の部屋です。居室には、ベッドとクローゼット、トイレと洗面台が設備されていました。掃除は週三回、洗濯は週二回、リネン交換は週一回のこと。現在、約60%の入居率です。

●費用……入居金は、居室タイプによって五八〇万〜一八〇万円、二人室は一〇八〇万〜一二八〇万円ですが、入居九十日以内に解約の場合は、施設利用料を差し引いた入居金全額返還の制度がありますが、今まで該当者は皆無だそうです。なお、解約時の入居金の返金があるのは六十ヶ月まで。

毎月の経費は、利用料十九万八千円＋介護保険の一割負担金＋その他費用(居室メーターの電気と一律水道代一〇五〇円)です。

体験入居の制度はないそうです。

●医療・介護体制……年二回の健康診断制度があり、月二回、提携病院の内科医師が来所診療を行い、歯科医師は、月一回の訪問診療がある。また、通院には職員が付き添う。介護職員は、入居者二名につき一名の手厚い配置で、夜間も各室の見回りを実施する。

●食事……朝食は、和洋選択が可能。私達も、施設自慢の昼食を一階食堂でいただきました。メニューは、夏野菜のカレー、ブイヨンスープ、ミニ野菜サラダ、ぶどうで、お茶は暖かいもの、冷たいものが供されました。日頃から、入居者が着席してから、配膳するように心がけているそうで、細やかな配慮が感じられました。

●感想……駅に近く、施設が出来てまだ四

ヶ月、すべてが清潔・きれいで、食事も高い評価を受け、入居希望者が多いということでした。ただ、ナイフ類は持ち込み禁止と聞き、果物などの見舞い品は、考えなくてはいけな

いと思えました。

【その他の参加者の声を次に紹介します。】

◎駅に近くて便利なので、友人がたびたび見舞いに来てくれそう。

◎戸塚駅から分り易いルートにあるので、入居しても家族がたびたび様子を見に来てくれそうである。

◎駅から近い立地条件にしては、入居金も月々の利用料もそれほど高くなって、手ごろと感じた。

◎現在独り暮らしをしているせいか、あの狭い居室に入るのはいやだと思ふ。

◎試食した昼食は、年齢にあった配慮がなされ、とても美味しかった。

◎アピタやトツカーナも近く、介護度が低くて元気で出歩けるうちは、入居してもよいところだ。

◎毎日レクリエーション(麻雀・習字・コーラス・体操ほか)が5〜6種類用意されていて、楽しく過ごせそうである。

◎入所後の生活は、規則に縛られるのではなく、かなり自由度が高いと感じた。

◎たまたま見学したフロアの入居者は、男性はわずか一人で、施設全体でも六人とか。男性にとつて考えさせられた一日でした。

日限山荘は8月をお休みします。 9月2日より開きます。
9月の開催日：2日、6日、9日、13日、16日、20日、23日、27日、30日です。

総ぐるみ福祉の会の移送サービスを、日頃利用されている林さん、また、日限山荘でマツサージのボランティアをしてくださっている村山さんが、原稿を寄せてくださいましたので紹介します。

娘の結婚披露宴に出席できた夫

林 公子

真つ赤なバージンロードを進む、古びた車椅子とその車椅子を押す純白ドレス姿の花嫁、車椅子ごと先頭を切つてチャペルに入場したのは、花嫁の父である私の夫でした。

当時六十八歳の夫は、脊椎小脳変性症（多系統萎縮症）を発症して約十年目の秋でしたが、訪問看護を受けながら、私が在宅介護を始めてすでに五年が経過していました。症状は進行して、四肢の麻痺、身体の拘縮、一日数回の痰の吸引や食事と排泄の介護が必要な状態で、要介護度5では、一人娘の結婚披露宴への出席は不可能と判断され、本人も家族も消沈していました。

「一緒に披露宴に参加していただけないか？」思い切つて相談したのは、過去に訪問看護でお世話になり、その当時はすでに退職されていたお二人の看護師の方でした。私と夫の慣れない家庭介護生活に、家族以上に親身になって、医療や介護の知識と知恵を授けてくださった恩人でもありました。

父として娘の花嫁姿を見届けたいという夫の希望を、お二人は快諾してくださいました。当日は、上品なパーティードレス姿で親族席にとけこんでくださり、夫の食事介助、排泄の世話、顔色・呼吸・脈のチェック等々をしてくださり、式の進行の合間を見て、夫

を別室で臥床・休養させるなど、その配慮は、長年私と共に、夫の状態を見てくださった看護師と患者という関係以上の、愛情あふれるものでした。披露宴の間も、こわばった夫の体をさすり続けてくださり、その姿は、任務で患者に付き添うというより、夫のもう一人の娘、または妹のようにも見えました。

このお二人の好意なくして、夫が娘とバージンロードを歩くことはなかったという思いから、三歳になる孫に、この当日の思い出を語りながら、私の看護・介護生活はなお続いております。

私の東洋医学との出会い

村山 哲行

私は、数年前に還暦を迎え、ここ日限山に住んで30年になります。

今から10年ほど前に目を患い、視力のほとんどを失いました。そこで、長年にわたるサラリーマン生活に終止符を打ち、盲学校の門を叩くに至りました。

私はここで初めて、東洋医学の手技療法である鍼・灸・按摩術（按摩術とは専門用語で通常マツサージと呼ばれることが多い）と出会ったのですが、この分野にまつたくの門外漢であった私は、入試の面接の席で、思わず「人の身体にハリを刺したり、指で押ししたりして、病気が治るとは思えません」と本音を口走ってしまい、落とされるところでした。

従つて、授業が始まって、あくまで国家資格取得のための勉強との思いで、もうひとつ気合いが入りませんでした。2年目になつて、臨床指導と称す指導教官による按摩施術を受ける体験授業があり、初めて全身にわた

る本格的な施術を受けました。

その日は朝から疲労がたまって気だるく、しかも寝違えで、頸から肩にかけて強い痛みが走っておりまして。幸いにして、学内第一人者の鈴木和子先生の治療を受けることが出来て、症状がきれいに消え去りました。

この体験により何より嬉しかったことは、半信半疑であったこれら治療技術の効果を、初めて実感出来たことです。それ以来、東洋医学に対する見方はがらりと変わり、確信を持つて積極的に施術の習得に取り組みることが出来るようになりました。

恩師の鈴木先生は、すでに盲学校を退官され、今はご主人様と一緒に大倉山で鍼灸治療院を経営しておられます。私は今でも事あるごとに助言を賜り、年1〜2回は先生の治療院で技術研鑽の実施指導を頂いています。

これらの施術は、悪性腫瘍、ウイルスや細菌による感染症や急性の炎症を除いた、殆どの疾患に適用可能であることが広く知られています。身体の疲労、心の憂鬱感、肩こりやギックリ腰などの筋肉痛・関節痛、頭痛、眼痛、冷えなど、多岐の症状に有効です。日頃から、これらの症状でお悩みの方は、東洋医学の施術を試みるのも一考かと存じます。

私は、月二回（第一、三金曜日）午後二時から、日限山荘で一人十五分程度の体験マツサージを行つていまして、ぜひお出かけください。また、日限山地域であれば、訪問治療もお受けいたしますので、左記までご連絡ください（日限山3丁目在住）。

電話 045-843-4170
携帯電話 080-1131-6726

…「NPO総ぐるみ福祉の会」のホームページ (<http://sougurumi.jp/>) をぜひご覧ください。…

編集：藤井香代